

## レポート

氏 名 邹 妍 (中国)

研修機関 岡山大学大学院社会文化科学研究科

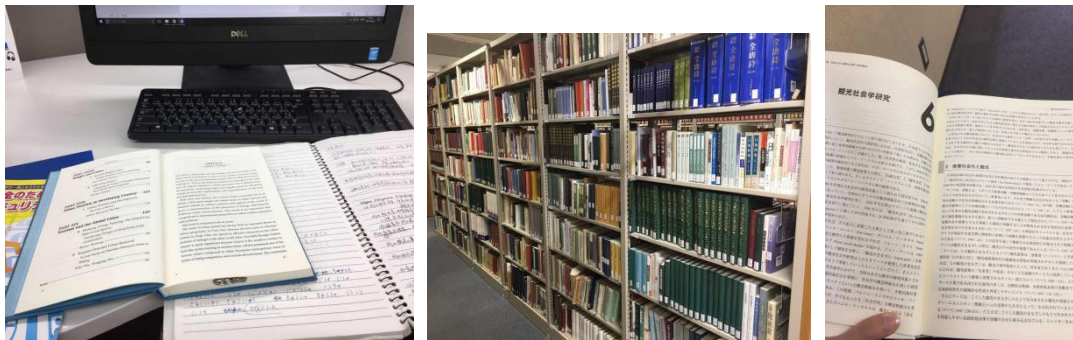
研修内容 観光

私は岡山県で3ヶ月間、観光に関する研修を受けましたが、岡山県の青い空と青い海、そして閑静で落ち着いた環境が強く印象に残りました。同時に、感謝の気持ちを深く感じています。

研修の間、印象に残ったことがたくさんありますが、中でも一番驚き印象に残ったことは、それぞれの方が皆、効率よくまた責任感を持って仕事をしていることです。ここ晴れの国おかやまでは、人々が皆、大変真面目に生活をしているのだと感じさせられました。

10月3日が岡山大学での研修の正式な初日で、松田教授から指導を受けました。毎日朝の9時から松田教授とクラスメイトと共に発表の時間があります。その時間に、それぞれが発表、宿題の提出をし、それに対して松田教授がコメントします。その後、クラスメイトと共に興味がある授業に出席することができます。毎週月曜日は松田教授と食事をするになっています。

一方で、松田教授が指導する学生たちは、2週間に一度17時40分から19時40分までゼミがあり、その後は21時半までゼミの食事会があります。毎日2、3時間を読書や宿題に費やさなければならず、時々夜遅くまで学校にいななければならないこともありました。しかし、これこそが大学の研究における学生が取り組むべきことです。



とても感銘をうけたことは、学生は皆宿題を真剣に取り組むことです。また学生でいられることがとてもうれしく、大学で自由を感じます。岡山大学が大好きですし、ここは学生時代に戻ったような気分させてくれる場所です。大学での研究は、主に関西観光圏に焦点を置き、JRパスとユーロスターを比較するレポートに取り組みました。



10月には岡山で観光開発についての情報を得る目的で、いくつか企業訪問インタビューを行いました。10月11日には松田教授の指導の下、倉敷観光コンベンションビューローにて初めてのインタビューを行いました。インタビューの相手は山本課長でした。18日には大学で岡山県観光課に対するインタビューが行われ、24日には後樂園を訪れ、名園についての詳細な説明を聞きました。

10月15日には、研修員による発表と料理教室が開催されました。そこで私は中国の観光について簡単に紹介しました。また、16日には岡山市で開催された国際観光シンポジウムに参加することができました。

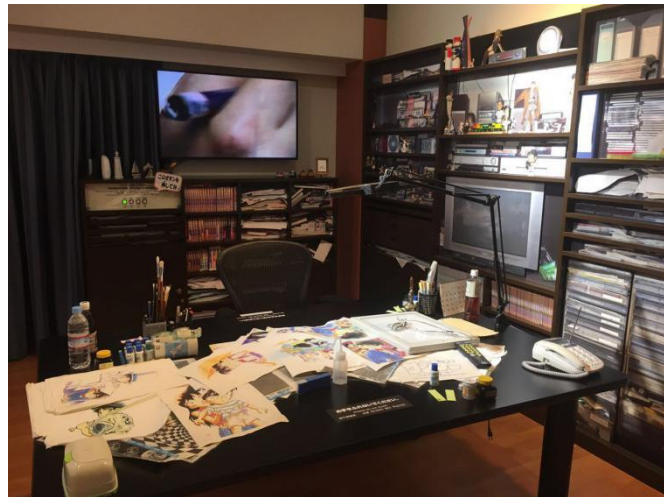


11月初旬には、岡山県国際交流協会の職員2名と研修員のビマラさんとで、ジーンズミュージアムを訪れるために児島へ視察旅行に行きました。衣服の美術館を訪れたのはこれが初めてで、中国にはこのような美術館はないと気付きました。体験型の観光旅行はとてとても新しいトレンドであり、本当に楽しかったです。またこの旅行について観光発信ウェブサイト「Welcome to OKAYAMA」へ寄稿する記事を書きました。





青山剛昌ふるさと館について毎日の発表の中で少し触れていたこともあり、松田教授が鳥取にあるこの記念館に他の学生と共に連れて行っていただきました。とても感謝しています。中国にはこのようなアニメーションに関する美術館はまだありません。アニメは日本で重要な産業です。このような分野は若者たちに夢を与え、さらに創造することを促すと思います。



自由な時間には観光について研究する研修員として、鳥取、出雲大社、北九州、大阪、京都、奈良などの近県や、岡山市から近い児島、総社、備前、吉備津などを訪れました。アート展示の鑑賞や親切な人々が住む岡山市内を散策などして過ごしました。人々は真面目に働き、気力に満ち溢れています。ここに数ヶ月住んでみて、電車のアナウンスが「岡山」と案内する瞬間、あたたかい気持ちになり、一時的な滞在にも関わらずここを私の故郷だと実感します。ここで、私に親切で寛大に接してくれる実に多くの人々と出会いました。





将来、私が江西省と岡山県の友好関係のためにもっと貢献出来るようになることを心から願っています。日本でも有数のデニム生産や発展した医療体制がある素晴らしい地域ですので、国に帰ったら必ず岡山を中国の人々に紹介しようと思います。人も国も相互理解ができると強い絆を育むことができるでしょう。

日中両国が平和で、温かさに満ち、希望が溢れ、友好関係がますます発展することを心から祈念しています。